

## <神は私の避け所>

詩篇 46 編

神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。  
それゆえ、われらは恐れない。たとい、地は変わり山々が海の  
まなかに移ろうとも。たとい、その水が立ち騒ぎ、あわだっても、  
その水かさが増して山々が揺れ動いても。【1～3節】

人は避け所を必要とする。その避け所は神。  
恐れを抱く危機の中にあっても、孤独の真ただ  
中にあっても、神がまことの避け所であり、力で  
あり、苦しむとき、そこにある助けである。

「避け所」の3つの意味

- ①安全な場所
- ②備えられた場所・・・あらかじめ備えられている所
- ③高台・・・砦、やぐら、逃れ場、難攻不落で、安全な場所。

主はわが巖、わがとりで、わが救い主、身を避けるわが岩、わが神。わが盾、わが救いの角、  
わがやぐら。ほめたたえられる方、この主を呼び求めると、私は、敵から救われる。

詩篇 18 : 2、3

砦は守りと攻撃の両方に用いられる。

「苦しむとき、そこにある助け」

苦しむ・・・コーナーに追いつめられるような意味。

逃げ場がない！

### 【背景】

ヒゼキヤ王の時代にエルサレムは強国アッシリア軍に完全に包囲された。

軍の数は18万5千人。エルサレムは絶体絶命のピンチを迎えた。

ヒゼキヤ王はどうしたか。 預言者イザヤは何と言ったか。

参照：Ⅱ列王記 18、19章 イザヤ書 36、37章



私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。

私の助けは、天地を造られた主から来る。 詩篇 121 : 2

目前に迫る雄大な山、人の手によっては絶対造りだすことのできない  
美しい空。これを造った方が私の神。天の父なる神！！

#### 【マルチン・ルター】

聖書の教えから離れてしまった当時の教会（ローマカトリック）を、聖書に忠実な教会に立ち返らせようと奮起し宗教改革に挑んだが、弾圧を受け、窮地へ追い込まれた。その時ルターを支えたのが詩篇 46 篇。「神はわがやぐら」という賛美歌がルターによって誕生した。

「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。」詩篇 46 : 10

やめよ・・・放棄せよ。